教育目標：◎目標を持ち自ら学ぶ意欲と創造性に満ちた生徒
◎心豊かで思いやりがある生徒
◎明るく健康でたくましい生徒

R5年11月28日(火)

第９号

神原中学校 学校だより

絆

文責
神原中学校
校長
大城美千代
TEL917-3407
FAX917-3427

和

行事の意義とは？

○感動と驚き、所属感と存在感、連帯感と集団の絆
○集団が同じ目標に向き合える人間教育の基礎

沖縄県でも、至る所に師走の象徴であるイルミネーションが輝きを増し始めました。令和五年も残すところあと一ヶ月となりました。まさに、ラストスパートの時節ですが、冬の出で立ちはまだ感じられません。

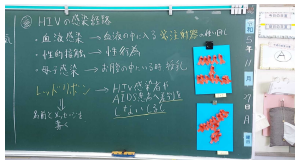
過日、十月二十五日になはーとで行われた「合唱コンクール」は、大盛況でした。グランプリに輝いた三年一組は、十一月二十二日に行われた那覇地区音楽発表会で、「少人数ながら大変よく頑張った」というお褒めのことばがあったと聴いています。三年一組さん、緊張感もあったことでしょうが、本当によく頑張りました！この経験は、皆さんの今後の生活の糧になることでしょう。指導して頂いた音楽科の内間保子教諭、学級担任の高良政之教諭に、心より感謝しています。

さて、十一月にも、神原中学校では多くの行事がありました。一人一人が行事の意義を考え、振り返ってみましょう。

【十一月の主な行事】

①地震・津波避難訓練（十一月二日）
②地区駅伝競走大会（十一月四日）
③（神原小・壺屋小）神中登校日（十一月八日）
④いっこく堂講演会（十一月九日）
⑤トックリキワタ祭（十一月十八日）
⑥地区中文祭・音楽発表会（十一月二十二日）
⑦エイズデー特設授業
⑧授業参観（十一月三十日）

11月の主な行事



主な行事

12月

12/1(金)
生徒会立ち会い演説会
12/5(火)
修学旅行壮行会
12/6(水)～12/8(金)
2年修学旅行
12/14(木)
合同帰りの会
生徒会専門委員会
12/19(火)
3年総合テスト
（音美技体）
1年三者面談
12/20(水)～12/22(金)
全学年三者面談
12/25(月)
2学期前半修了日
12/26(火)～1/4(木)
冬季休業(生徒)

＊1/5(金)から
「2学期後半」のスタートです！

教師の役割と保護者(親)の役割

ある教育専門誌にこんな話が載っていました。『人は時と共に変化していくものようです。何故ならば、戦後七十九年の日本人の形態を見れば理解できます。脚が長く細身の体つきになり、身長も伸びていますが、体力や運動能力は低下していると言われています。』

それは「歩かない、重い物を持たない、動きたがらない」等の生活習慣が大きな要因となっているそうです。

昨今、国民的ニュースは、「イジメによる自殺」という痛ましい出来事ばかりです。何故、このようなことが次々に起こるのかについての本質的な議論や対策は見えてきません。「責任」がどこにあるのかの追求ばかりに陥っている気がします。

日本全国の地域社会が変化し、そこに住んでいる人間の絆が希薄化して、果たして、そこで育つ子どもがしっかりとした社会観を持って、生活できるでしょうか？

子どもにとって「親」は、絶対的な存在です。「自分を認め、受け止めてくれる、守ってくれる一番の理解者で有り、心の居場所」なのです。

また、自分の子どもだけでも本当の意味での成長は期待できません。学校という集団の中に入ると、家族のようなわけにはいきません。そこには必然的に子ども同士の摩擦が生じます。その解決には時間がかかります。

学校では、どの子も等しく見つめ育てる義務があります。

こういう時宜だからこそ、保護者が学校に目を向け、学校と向き合い、子どもの成長のために協力すべき時代だと思います。そして、**保護者がなすべき事と学校がやるべき事を明確にすべきです。**

便利さと、豊かさを追求してきたツケは確実に大人を含めて、日本という国の陰を生みだしています。それぞれの保護者（特に父親）が、年間複数回、学校に足を運べば、悲しい出来事は起こらないと信じています。つまり、親が本気になって子どもの教育に参加する姿勢の変化を強く期待します。

結びに、過日のなはーとで行った「合唱コンクール」の二百名余の保護者の皆様方の参加は、そういう意味で、親が子どもの教育に参加した素敵な一例ではなかったでしょうか・・・。